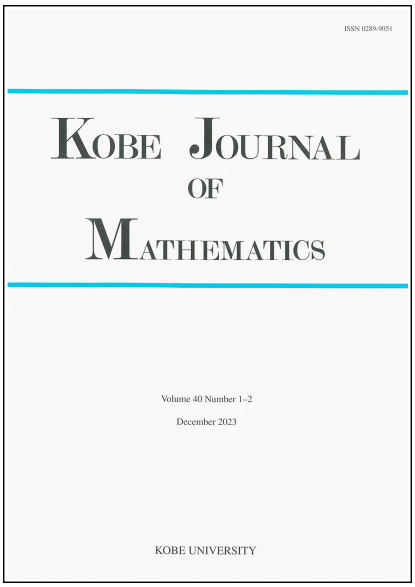
数学ジャーナルだより

Kobe Journal of Mathematics

神戸大学大学院理学研究科
佐治　健太郎



Kobe Journal of Mathematics（以下，KJM）は数学分野の研究論文を掲載する学術的専門誌です．神戸大学の大学院理学研究科，システム情報学研究科，人間発達環境学研究科の共同編集により刊行されています．KJM は1973年に創刊された Mathematics Seminar Notes（以下，MSN）の継続後誌として1984年に創刊されました．MSN の創刊号には「Mathematics Seminar Notes contain new results offered in seminars at Kobe University」とあります．名称変更の経緯は，MSN のような刊行物から，より国際的な数学誌として標準的な形態へ整備する意図があったと推測されますが，当時の状況は今となってはわかりません．KJM は2026年現在43号を発行しています．

KJM は2024年発行の41号より完全電子化され，継続前誌の MSN を含めてすべての論文を神戸大学図書館が運営している「神戸大学学術成果リポジトリ KERNEL」から自由に入手できます．他の雑誌と同様に，KJM の冊子体は国内外の多くの雑誌と交換されていました．雑誌交換は，かつては他の学術誌を入手するための重要な仕組みでした．しかし，様々な媒体の電子化に伴い，その重要性は以前ほど高くないように思われます．このことは予算逼迫と共に，電子化決定の際の大きな要因の一つでした．電子化に際しては，これまで雑誌交換をしていた機関に対し，「今後はこちらから冊子体の KJM をお送りしませんので，貴誌をお送りいただけない場合はその旨を受け入れます」という連絡をいたしました．ほとんど返答は来ませんでしたが，「ではこちらからも，もう送りません.」という連絡がいくつか来て，すこしさみしい気持ちにもなりました．電子化前は KJM は冊子体のみであったので，「○○号の△△が読みたいのだが，入手できないのでコピーを送ってくれないか？」という問い合わせがたまに来ておりました．電子化してすべての論文を自由に入手できるようになり，研究者の皆様は便利になったと思いますし，掲載論文が無料のオープンアクセスですので，著者の皆様にとってもよい環境になったと思います．また，電子化に伴い，長さの制限もなくなり，カラーの図も自由にお使いいただけます．

この電子化に伴い，編集プロセスも一新し，アクセプト後すぐに校正を行い，校正が返って来次第すぐに出版されるという流れになっています．投稿からアクセプトまでの期間は，ほぼそれぞれの論文の査読状況のみに依存するので定まった傾向はありません．投稿から査読依頼，掲載決定から校正，校正から発行の各期間は可能な限り短くするようにしており，現在はどれも概ね１週間程度で実現できています．

KJM は投稿システム等は使っておらず，指定されたメールアドレスに添付ファイルをお送りいただく形での投稿をお願いしております．日本からの投稿では見られないのですが，BCC で同時に複数の雑誌へ送付していると思われる投稿が散見されました．そういうものは，投稿文面が「この論文を “your journal” に投稿します」という形式になっており，多重投稿が強く疑われました．このような事情から，メール文面には「Kobe」という語を含めていただくよう投稿規定にてお願いしております．

論文投稿があると，明らかにリジェクトすべきという論文以外は査読者候補を決めて査読をお願いするという流れになっています．各プロセスでの重要な決定は編集委員からなる編集会議で行います．

KJM は通常の良質の論文はもちろんのこと，通常の雑誌への投稿は難しくても世に出しておきたいというような結果や長さの論文も，査読者と編集委員会が価値ありと判断するならば積極的に出版したいと考えております．上に書きましたように無料のオープンアクセスですし，長さもカラーの図も制限がなく，査読以外のプロセスにかかる時間は極力短くなるようにしております．また，リポジトリ KERNEL の機能により論文が閲覧された回数がわかるようになっています．論文の投稿先としてぜひ KJM を候補に入れてくださると幸いに存じます．

査読依頼を行うと多くの場合，快くお引き受けいただくか，お引き受けいただけない場合でも代わりの査読者を推薦していただいています．査読者の皆様には日々のご多忙の中にもかかわらず，丁寧に査読していただき，建設的なご助言・ご指摘を賜っております．どの雑誌でも同じではありましょうが，KJM は査読者の皆様のご協力によって成り立っております．KJM の論文の査読をしてくださった皆様に，この場を借りて深く御礼を申し上げます．